

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700315		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 尾西蓮池の家		
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2		
自己評価作成日	平成21年 9月 5日	評価結果市町村受理日	平成21年11月 6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2373700315&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	平成21年 9月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・外出支援で週1回位、近くの喫茶店へ出掛け珈琲など注文し一時を語り合いながら楽しく過ごされます。 ・お食事は朝・昼・夕食後、手作りで皆さん楽しみにされている様です。 ・カラオケを唄う設備あり2号館にてマイク片手に楽しんでいます。 ・優しく、穏やかで家族的な介護を目指したいです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「やさしく おだやかに 静かな介護をめざします」との理念通り、落ち着いた安定感のある支援が行われている。ホームの開設から間もない頃に採用された勤続5～6年の職員が多く、チームワークは抜群である。外様ではあるが、気さくな管理者との関係も良好である。</p> <p>3ユニットを構成する職員の中に准看護師が4名おり、365日24時間を看護師が隙間なく埋めるようシフトを組んでいる。胃瘻、点滴、インスリン注射にも対応しており、医療面での支援の幅は広い。ただ、このことが家族に周知されておらず、家族アンケートでは「医療、健康面」に不安を示す家族もいた。外出支援然りであり、ホーム・職員の努力や取り組みが正当に評価されていない。介護計画の作成と運営推進会議の開催については、仕組みづくりが急務となる。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。	「やさしく おだやかに 静かな介護をめざします」がホームの理念である。大声もなく、走り回る姿もなく、ホーム内には理念通りのたおやかな時間が流れていた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	となりの畑の方と気軽に会話をしたり、作物の差し入れをして下さる。 中学校の運動会、地域の秋祭りに参加	これまで、食材の手配は業者任せであったが、自分たちで地域に買い物に出ることに変更した。近所の喫茶店へは毎週出かける。地域の小学校から、運動会への招待があった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者への支援は精一杯頑張っている。地域の高齢者等の暮らしに役立つ事はないが等の話し合いは、手付かずである。事業所として、自立している姿が見本になっているかもしれない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた、検討事項や経過報告を話し合い、運営推進会議のメンバーを替えたりし、意見を聞き、さらなるサービス向上に努める。	現管理者になって初めての運営推進会議が、7月に開催された。外部評価との連動も見られず、会議の盛り上がりは感じられない。	メンバーに利用者を加えることは必須。自己評価の報告、外部評価の検証、目標達成計画のモニタリング等、会議に課せられた役割は多い。メンバーへの周知を願いたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に何度か市役所をたずね、市町村担当者と情報交換を行っている。 地域の会合にもこれから極力参加する様に努める。	変更届の提出で担当者を訪ねたり、電話で問い合わせをしたりと、市・高齢福祉課とのつながりは緊密である。生活保護の利用者が5名おり、生活福祉課とのパイプもある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の共有意識の基に、身体拘束のないケアを実施している。	管理者は、着任早々、ユニット間の往来を妨げていた事務室の扉を開放した。これにより、利用者は自由にユニット間を移動している。玄関ドアは施錠されておらず、自由に入入りができる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう、職員同志話し合い注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施していない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が認知症の為、意見・苦情等を表現しにくいのが、家族や職員を通じて伝えられる事が多い	土曜日や日曜日は家族の面会が多い。管理者は、家族の意見を聞いたり意向を確認する絶好の機会としてとらえ、必ず出勤することとしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士の間から出た、意見や提案等を聞いて、管理者は運営に反映させている。	管理者の着任当初は、お互いに腹の探り合いの雰囲気があったようであるが、数日で打ちとけた関係が出来上がった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の間から出た、意見や提案等を聞いて、管理者は運営に反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を段階に応じて育成する為、働きながら、順次、機会を設けてトレーニングする様、努めている。 法人内外の研修を受ける機会がなかったが、今後参加する様に努めたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターによる研修会、交流会、行事等、交代で積極的に参加する様に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努めている。本人にとって困っていること、不安、希望等よく聞いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものを理解し、事業所としては、どのような対応ができるか管理者が適切に対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合は、可能な限り、柔軟な対応を行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、お互いが協働しながら、和やかな生活が出来るように配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、利用者の日々の様子や職員の思いを伝えることにより、本人を支えていくための協力関係を築けることが多くなっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年までは、なじみの知人、友人等が会いに来てくれましたが、お互いに高齢化して、交流がむずかしくなって来ている現状、継続的な交流が出来るよう支援に取り組みたい。	元教師の女性利用者は、学校に戻りたいとの意向をもっている。実際に連れていくことは叶わないが、管理者が校長になり、事務室を職員室に見立てて二人だけの仮想職員会議が開かれる。	利用者それぞれに、思い出の場所があり懐かしい人がいるはずである。思いを叶える取り組みに期待したい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に会話したり、カラオケを歌ったりし、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるように心掛けていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声を投げかけ言葉や表情から意思を察し、心の声に耳を傾ける様に努め、質問を記した「生き生き生活シート」を作り、本人の気持ちを表に出してもらう	「温泉に行きたい」という男性利用者の思いを聞いて、管理者は地域の銭湯に同行し、利用者との裸の付き合いをしている。銭湯には岩盤浴等の設備もあり、利用者は温泉気分になっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の話や家族・知人等の訪問時に少しずつ把握に努める、各々の職員が聞き取った話など一枚のシートにまとめ全員の職員が情報共有に努めたい		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設の人全体の把握に努める 現状維持ではなく、可能性を探りだし、伸ばす方向に努めていきたい		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望を聞き、反映させるようにしている 介護者が本人になったつもりで気づいた事を書き入れてこのシートからケアプランに活かしたい	介護計画作成の手順が確立しておらず、目標設定も曖昧である。P(介護計画) - D(現場のケア) - C(評価・見直し) - A(改善・次の計画)のサイクルが回っていない。	ホームの運営や課題、業務改善について話し合う職員会議が開かれていない。会議を持ち、介護計画作成の仕組みを作り上げることが急務である。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護記録をつけ、いつもと様子が違う時など詳細記録に記録し勤務開始前には確認をしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況に応じて、通院などの支援の対応をしている又家族の要望に対応し外泊や外出に支援出きる様に取り組んでいきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らしていける様に運営推進委員会を開き民生委員と意見交換する機会を設けている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医にする為に家族と協力し通院介助を続けていきたい	ホームの提携医とは別に、精神科の専門医に通う利用者がある。医療連携の加算対象とはなっていないが、ホームには4名の准看護師があり、365日24時間の医療体制を作り上げている。	胃瘻、点滴、インスリン注射等、医師の指示のもとに看護師が認められた範囲で医療行為を実施している。医療面での充実を、家族に的確に伝えることも必要であろう。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時見守りしながら、毎日決まった時間にバイタルチェックし、体調の変化にいち早く気付く様にしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、安心して治療できるように、又病院関係者との情報交換や相談に努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やキーパーソンとの連絡をまめに取り、注意を向けるようにする	利用者・家族の意向があり、主治医の判断が出れば、いつでも看取りが可能な体制を作り上げている。職員の間にも、抵抗感や拒否反応はない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を受けていても、いざという時には不安なので、常日頃から自信が持てるような取り組みをしていきたい 対応マニュアルを整備し常に心構えを！		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練が最も大事 地域との協力得られる様に築いていきたい	年間2回の防災訓練を実施している。実際に非常ベルを鳴らし、通報訓練も行った。ただ、夜間の災害を想定しての避難訓練は行っていない。	夜間の災害発生時には、少なからず地域住民の協力や支援が必要となる。地域を巻き込んだ防災訓練(夜間想定避難訓練)の実施を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけなど行い、対応している	居室への入室時には必ずノックをすることや、不適切な言葉掛けをしないことなどを申し合わせている。機械浴(リフト)の支援の折にも、利用者を尊重した対応をとっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を何とかして上げたい、あげなければいけない！と常に心で思うがなかなか実践できない		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心がけてはいるが、どうしても職員側の都合を優先させてしまう 一人ひとりのペースを大切に希望に沿って支援していきたい		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやオシャレができる様に支援していきたい		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は何よりも楽しみの一つ。 一人ひとりの好みなどを聞き、献立を立て利用者とスタッフが一緒に準備できたらいい	職員が順番で1週間分の献立を考え、季節感や個人の嗜好を考慮した支援を行っている。職員は食事介助と見守りに徹し、同じテーブルで同じ食事を摂ることはない。	家庭の一家団欒は、家族が同じ食卓を囲むことから始まる。「できない」と決めつけず、できることから取り組みを始めてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量・水分量を記入している 夏の季節、汗もかきやすく、水分補給には気配りしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけと必要に応じて介助する。 本人の力に応じた口腔ケアを！就寝前には義歯洗浄剤使用		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導、こまめに行う。1人ひとりの排泄パターンを把握する オムツ対応の場合、パットは最小限の枚数におさえる(こまめに交換する)	夜間のパット利用者にも声かけをし、トイレ誘導を行って、自立排泄ができるような支援をしている。パットの使用量が大幅に減ったことで、家族からはお礼の連絡が入った。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ自然排便ができる様に食事などで工夫する。ラジオ体操、ウォーキングなどの参加を促す様にし便秘の予防に努める		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴も楽しみの一つ 職員の都合で変更・中止などせず個々にそった支援をしたい	胃瘻の利用者にも入浴してもらえるよう、機械浴(リフト)の設備が導入された。機械浴の日には、体力のある若い男性職員の存在が大きい。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならぬ様になるべく日中の活動を促し、生活の流れが整う様、又、一人ひとりのその日の体調気分により安心して気持ちよく眠れる様支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には本人に手渡し、確実に服用できたか確認する。利用者の体調の変化が見られた時には、詳細記録をとり早めに病院受診に努める		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喜びのある日を過ごせる様に一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと気分転換の支援としている		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に少しでも出られる様に支援に努めたい	週に1回は近所の喫茶店へ出かけている。外でお金を使えない生活保護の利用者のために、1日置きにホーム内にカラオケ喫茶が開店する。コーヒー、紅茶、ココア、お茶、ミルク等、利用者は好きな飲物を注文して外出気分を味わっている。	家族アンケートで、評価の低かった項目である。ホームでの手厚い支援と関係なく、家族の側に情報の不足が感じられる。家族への情報伝達の仕組みを構築していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方には、事務所で預かりしている。お小遣い以外に自分で手元に持っておられ買物などの時に自分自身で支払いをされる		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話にもスタッフが側につき電話していただいている。積極的に外部の人とコミュニケーションをとれる様支援していく		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの飾り付けなど雰囲気作りを利用者さんと一緒に取り組む。 生活感や季節感を撮りいれて居心地よく過ごせる様工夫していく	広いフロアーは、食堂と居間のスペースを別々にとって、なお余りある。大きなソファが3セットあり、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室の入り口などにカーテンで目隠しを作ったり、プライバシーとある程度守れる様に取り組んでいく		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく生活感や季節感を撮り入れて(絵とか、お花、写真など)居心地よく過ごせる様に工夫している	大のドラゴンズファンという女性利用者は、テレビ観戦と新聞記事を読むことが日課となっている。中日が巨人に負け続けていることもあり、ジャイアンツファンの職員は、自身のひいきチームを口に出せないでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方が日常的に楽しみながら活用・活動できる環境を作っている 夕涼みや外気浴ができる広いスペースがあるので、もう少し活用したい		

1 自己評価及び外部評価結果(2号館)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700315		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 尾西蓮池の家 2号館		
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2		
自己評価作成日	平成21年 9月 5日	評価結果市町村受理日	平成21年11月 6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=2373700315&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市中区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年 9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1日おきに午後、カラオケ喫茶を開いてコーヒー等を飲みながら、皆さんでカラオケを楽しまれています。 優しく穏やかな家族的な介護をめざしています</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>となりの畑の方と気軽に会話をしたり、作物の差し入れをして下さる。</p> <p>中学校の運動会、地域の秋祭りに参加</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>利用者への支援は精一杯頑張っている。</p> <p>地域の高齢者等の暮らしに役立つ事はないか等の話し合いは、手付かずである。</p> <p>事業所として、自立している姿が見本になっているかもしれない。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前回の運営推進会議で取り上げられた、検討事項や経過報告を話し合い、運営推進会議のメンバーを替えたりし、意見を聞き、さらなるサービス向上に努める。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>月に何度か市役所をたずね、市町村担当者と情報交換を行っている。</p> <p>地域の会合にもこれから極力参加する様に努める。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員の共有意識の基に、身体拘束のないケアを実施している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう、職員同志話し合い注意を払い、防止に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施していない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が認知症の為、意見・苦情等を表現しにくい、家族や職員を通じて伝えられる事が多い		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士の間から出た、意見や提案等を聞いて、管理者は運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の間から出た、意見や提案等を聞いて、管理者は運営に反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を段階に応じて育成する為、働きながら、順次、機会を設けてトレーニングする様、努めている。 法人内外の研修を受ける機会がなかったが、今後参加する様に努めたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターによる研修会、交流会、行事等、交代で積極的に参加する様に努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努めている。本人にとって困っていること、不安、希望等よく聞いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものを理解し、事業所としては、どのような対応ができるか管理者が適切に対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合は、可能な限り、柔軟な対応を行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、お互いが協働しながら、和やかな生活が出来るように配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、利用者の日々の様子や職員の思いを伝えることにより、本人を支えていくための協力関係を築けることが多くなっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年までは、なじみの知人、友人等が会いに来てくれましたが、お互いに高齢化して、交流がむずかしくなって来ている現状、継続的な交流が出来るよう支援に取り組みたい。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり、毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に会話したり、カラオケを歌ったりし、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるように心掛けていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で声をかけ詳しく話を聞いて、希望・意向に沿うように努めている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これ迄の生活歴や暮らし方生活環境を本人・家族から情報などを把握する		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活行動、体調の変化等を職員同志で話し合い、把握できるように努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングを開き職員同志で話し合い、時には家族に連絡をして安心して暮らせるように介護計画を作成している		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に朝夕のバイタルチェック、食事、水分量排泄など介護記録をしている。口頭や記録を職員に申し送りをして見直しに活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や入退院の送迎、入院中の洗濯物の管理を行っている 柔軟な支援やサービスに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の福祉課、民生委員と意見交換をする機会を設けている。訪問理美容室、カラオケ喫茶・喫茶店を利用して、毎日の生活に楽しむ事ができる様に支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回ホームドクターの往診又は受診したり、電話で相談をしている。家族の希望の病院があれば通院介助をしている		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員5名在職。医療面での相談対応を行ってもらえる。利用者の毎日の健康状態を把握して対応に応じれるように支援している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時本人の情報を提供し、週2～3回洗濯物を持って行った時に回復状況などを聞いたり退院に備えて相談する		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を踏まえ、主治医、職員が連携をとり家族、両者が話し合い、安心して過ごせるように取り組んでいる		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて看護職から応急処置について指導を受けたり、職員同志で話し合いをする		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、危険訓練・消火器の使い方などの訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを考えて良いケアができる様にプライバシーを損ねないように言葉づかいに気を付けて対応している		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分の思いを話せる環境になるように努めている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活を大事にし利用者のペースにそって出きるように支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立の出来る利用者は本人の意向によって決めている。訪問理美容室では、希望に合わせてカットや毛染めをしておしゃれを楽しまれる		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食事を作り、利用者の好みも取り入れたりすると喜ばれる。手伝いが出来る利用者は準備・片付けが出来るように支援している		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養摂取、水分摂取の記録をもとに、各自の状態に合わせた工夫をし十分に摂取できるように支援している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔状態に応じて声かけ見守りをする。利用者によってはスポンジを使用し口腔ケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	レベル低下によりベットの上的生活者が多くなり、オムツの使用を減らすのは困難だが、トイレに行ける利用者には声かけをする。介助の必要な利用者には時間を見計らってトイレ誘導する		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多くの水分摂取が出来るように助言したり、食事は手作りなので献立に工夫している。 毎朝ラジオ体操で、体を動かしたり天候の良い日はホーム前で散歩をする		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯は本人の希望通りになるのは、介助が必要な利用者は困難であるが、自立出来る入浴者にはゆっくりと入浴出来るように個々にそった支援をしている		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースを保持出来るように居室でテレビを観たり居室で休んだりフロアで過ごしたりしてその人らしい生活が送れるように支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの説明や薬の目的や副作用、用法、容量について理解し、服薬の確認や症状の変化の確認に努めている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お願い出来るような仕事を頼み、技術的な事、家事等を手伝ってもらい、経験を発揮できるように支援している		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	介護者が多くなり、自立の利用者も少数になったが、本人の希望を把握し喫茶店・花見・イチョウまつり等に出かけるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が困難な利用者が多く、所持するのは難しく管理者が管理している</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族に電話をかけたい利用者には、職員が電話をかけるように支援している</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアーの窓は大きく窓から見える景色で季節の移り変わりを楽しむ。</p> <p>キッチンでは利用者・職員が顔を見ながら話しながら作業が出来て、お互いの動きが確認できる</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロアーでは自由にテレビを観たり、談話をしたり、カラオケで楽しんだり、思い思いに過ごせるように工夫している</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた馴染みの衣類・寝具等、使用したい物を持ち込み、その人らしい生活が出来るように配慮している</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各個人の状態に合わせて、安全に生活が送れるように努めている。歩行が不安定な利用者はシルバーカーや手すりにつかまり安全に歩行が出来るように配慮している</p>		

1 自己評価及び外部評価結果(3号館)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373700315		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 尾西蓮池の家 3号館		
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2		
自己評価作成日	平成21年 9月 5日	評価結果市町村受理日	平成21年11月 6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2373700315&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F		
訪問調査日	平成21年 9月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やさしく、おだやかな家族的介護 1人1人利用者様に合った、きめ細やかな介護を心掛けている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>となりの畑の方と気軽に会話をしたり、作物の差し入れをして下さる。</p> <p>中学校の運動会、地域の秋祭りに参加</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>利用者への支援は精一杯頑張っている。</p> <p>地域の高齢者等の暮らしに役立つ事はないか等の話し合いは、手付かずである。</p> <p>事業所として、自立している姿が見本になっているかもしれない。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前回の運営推進会議で取り上げられた、検討事項や経過報告を話し合い、運営推進会議のメンバーを替えたりし、意見を聞き、さらなるサービス向上に努める。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>月に何度が市役所をたずね、市町村担当者と情報交換を行っている。</p> <p>地域の会合にもこれから極力参加する様に努める。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>職員の共有意識の基に、身体拘束のないケアを実施している。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう、職員同志話し合い注意を払い、防止に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施していない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が認知症の為、意見・苦情等を表現しにくい、家族や職員を通じて伝えられる事が多い		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士の間から出た、意見や提案等を聞いて、管理者は運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の間から出た、意見や提案等を聞いて、管理者は運営に反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を段階に応じて育成する為、働きながら、順次、機会を設けてトレーニングする様、努めている。 法人内外の研修を受ける機会がなかったが、今後参加する様に努めたい。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターによる研修会、交流会、行事等、交代で積極的に参加する様に努めた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努めている。本人にとって困っていること、不安、希望等よく聞いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の求めているものを理解し、事業所としては、どのような対応ができるか管理者が適切に対応している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案を行うと共に、早急な対応が必要な場合は、可能な限り、柔軟な対応を行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、お互いが協働しながら、和やかな生活が出来るように配慮している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、利用者の日々の様子や職員の思いを伝えることにより、本人を支えていくための協力関係を築けることが多くなっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近年までは、なじみの知人、友人等が会いに来てくれましたが、お互いに高齢化して、交流がむずかしくなって来ている現状、継続的な交流が出来るよう支援に取り組みたい。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話しを聞いたり、毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に会話したり、カラオケを歌ったりし、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方も遊びに来てもらう等、継続的な付き合いができるように心掛けていきたい。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望等、伝える事が出来ない現状ですが、本人本位に検討する様に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時家族よりの説明を、日常生活で会話により話しを聞いたり面会にて話が出ます。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団レクリエーションと個別で職員が接する事で楽しんでもらい1人1人の状況を把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者等と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を日々個別に記録し、特別な事などがあれば、詳細記録に記入し、職員間で話し合い見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時など、すべて対応し、入院時もすべて、物品等用意し、ご家族の負担にならない様支援サービスを行っている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域推進委員会を開いて、民生委員と意見交換する機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の往診があり、急変等あった場合、適切な医療を受けられる様支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置がある為、相談しながら行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、様子を見がてら洗濯物を取りに行き、退院許可が出た場合、なるべく早く迎えに行く様になっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年、他の号館でターミナルケアを行いました。十分な説明、話し合い等、出来ていない現状		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特別な訓練はしていないが、見よう見まねではあるが行ったりしている。自信を持って行える様な取り組みを行いたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	十分に身に付けているとは言えない為、避難方法を身に付ける様、努力して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様1人1人の秘密を保持しながら、誇りやプライバシーに気を配り、最善の対応をする様に心掛けている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人に合った、生活介護・支援が出来る様、ことばかけなどを通し、希望等聞く様にしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴等の時間は基本的な事は、だいたい決まっているが、利用者のニーズにあわせ支援対応を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は基本的に本人の希望で行っているが、選択が出来ない方などは、利用者様の身になって、選ぶ様に心掛けている。理・美容は移動車を利用。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来る事があれば、声かけをし手伝っていただいたり、片付けをお願いしている。全食、手作りの食事を提供している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合った食事形態、量を考慮し、1日全体を通じて、おおよそではあるが把握する様、記入している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて介助し、義歯洗浄も行っているが、思う様にさせていただけない方もみえる為、職員間で話し合い、よりよいケアが出来る様に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット使用の利用者には、声かけトイレ介助を行っているが、レベル低下もあり、むずかしくなっている方もある。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、水分摂取の量を増したりと工夫に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	レベル低下等リフト浴の方が増え個々に沿った支援が出来ず、曜日を決めて実施している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、1人1人の体調・気分に合わせ、その時々で昼寝など、休息していただける様支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を用紙に写し、理解する様努めている。服薬の袋には、必ず本人の名前を記入し、服薬を確認している。 病状の変化の確認を怠らない様に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出来そうな事は、声かけをし、頼むようにしている。 歌が好きな方には、なるべく音楽を流す様にし、カラオケにも参加している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時は、なるべく外で体操等行っている。 家族と外出される利用者もみえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人自ら所持する事が出来ない現状です。お小遣いとして、ご家族から預かっている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人自ら、出きる方がいない現状です。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロアーの飾り付けなど季節に合った物を利用者様で出きる方があれば、職員と一緒に手作りし、工夫している。生活感が出る様に心掛けている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>1人1人の居室があり、独りになれる様になっている。フロアーにはソファもあり、テレビを見たり、談笑出来るスペースがある。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時の時などに、家庭で使用していた物品等、持ち込んでいただいている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>平屋建てのホームになっていて、バリアフリーの為、他のユニットへ自由に行く事が出来、手すりも配置し安全確保を工夫している。</p>		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	40	家族の一家団欒は、家族が同じ食卓を囲むことから始まる「できない」と決めつけず、できる事から取り組みを始めて欲しい	年令と共にレベル低下が目立つが、「できない」と決めつけないで、出来る利用者には調理の下ごしらえを手伝ってもらい、一緒に食事を楽しむ	食事を一緒に摂ることは、食介の多いユニットも有り困難であるが1人の職員とでも一緒に食事を摂り、会話を楽しめるようにしたい	3ヶ月
2	49	家族アンケートで評価の低かった項目である、ホームでの手厚い支援と関係なく、家族の側に情報の不足が感じられる。家族への情報伝達の仕組みを構築していただきたい	利用者の日常の生活内容や1年の行事等を通信欄を月1回作り、家族との信頼関係を作る	利用者の生活、状態等を面会時や月1回の通信欄では各個人の様子を記入する。イベント行事等も家族が参加出来るようにしたい	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。